

AIの可能性と 得られた知見

東京大学 松尾 豊

サマリー

- AIの技術は現状、急速に進展している。
- 現在の技術には明確に限界があるが、今後、段階的に大きく飛躍する可能性が高い。
- AIの活用は極めて重要。AIの活用が、人間のこれまでの活動をより明確にする役目もする。

AIの進展で見えてきたこと(1)

- 「熟練の技」の嘘
- OKゾーン、NGゾーンは、人間もAIも同様に正しく判定する。
- その中間に微妙なゾーンがある。そこに関しては、人間は自信を持って間違える。
 - つまり、これまで検証が難しかったことなので、「権威」が効きやすい。
- AIの場合は、そこも数値化して解き明かしてしまう。
 - 外観検査の現場で起こっていること
 - 将棋や囲碁の世界で起こっていること
- 人間の表情や植物の生育状況を指標化することも可能
 - Cf) 認知症のスコア化と創薬
- 何らかの基準の指標化に関して、人間の精度を越えたものが作り得る

AIの進展で見えてきたこと(2)

- Amazonの採用にAIを用いた事例
 - 2018年、女性に関する単語が経歴に含まれると、評価が下がる傾向があった。
- AIが人間が持つバイアスをそのまま表現してしまう。
- AIの振り見て我が振り直せ
 - そこから人間が学ぶこともたくさんある
 - そもそも人間が意識していないことがたくさんある(これを発見してきたのがAIの研究の歴史でもある)
- 技術の進展も含めて考えると、アジャイルに修正しながら、改善していく必要がある